

# 令和 7 年度 東京都内湾水生生物調査 12 月稚魚調査 速報

## ●実施状況

令和 7 年 12 月 3 日に稚魚調査を実施した。天気は概ね曇りで、気温は 13.8～18.1℃であった。調査地点の風向は北から北東で、風速は 0.5～1.8 m/s であった。調査当日は大潮で、干潮は 9 時 18 分、満潮は 14 時 52 分であった(気象庁のデータ)。赤潮は今回の調査では各地点ともに発生していなかった。透視度は 8 月と比較して上昇した。採捕された生物は、全体的に個体数が少なかった。秋季から冬季に見られるアユの稚魚がお台場海浜公園で確認された。キチヌはお台場海浜公園、森ヶ崎の鼻の 2 地点で確認された。シラウオは森ヶ崎の鼻で確認された。魚類以外ではシラタエビやイサザアミ属が確認された。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
調査時刻	10:45-11:33	8:52-10:19	12:10-13:18
水温(℃)	15.2	18.1	13.8
塩分(ー)	29.3	16.6	28.7
透視度(cm)	45.0	44.0	42.0
DO(mg/L)	5.85	5.24	7.27
DO 飽和度(%)	65.1	61.6	83.8
波浪(m)	静穏	静穏	静穏
pH(ー)	7.84	7.80	7.40
水の臭気	なし	微カビ臭	なし
備考	なし	なし	なし

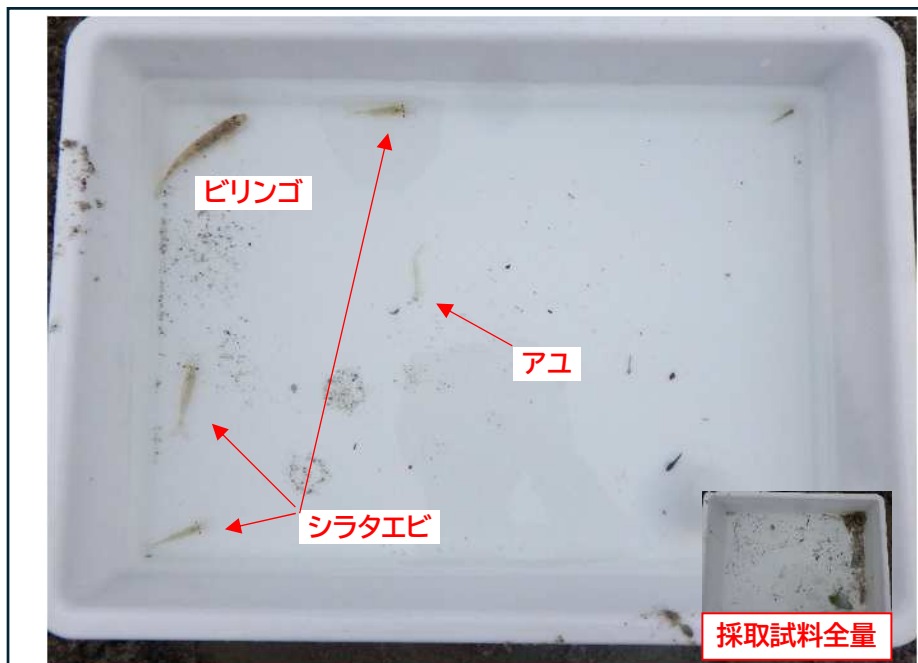
## ●主な出現種等(速報のため種名は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚類 (多い順*)	ビリンゴ(r)	シラウオ(r)	エドハゼ(r)
	キチヌ(r)	キチヌ(r)	アシシロハゼ(r)
	アユ(r)	ー	ヒモハゼ(r)
	チチブ属(r)	ー	ー
	ー	ー	ー
魚類以外	シラタエビ(r)	エビジャコ(r)	シラタエビ(r)
	ドロクダムシ(r)	イサザアミ属(r)	イサザアミ属(r)
	ー		マガキ(r)
備考	なし	なし	なし

\*)表中の( )内の記号は大まかな個体数を表す。

G: 1000 個体以上、m: 100～1000 個体未満、c: 20～100 個体未満、+: 5～20 個体未満、r: 5 個体未満

# お台場海浜公園 採取試料

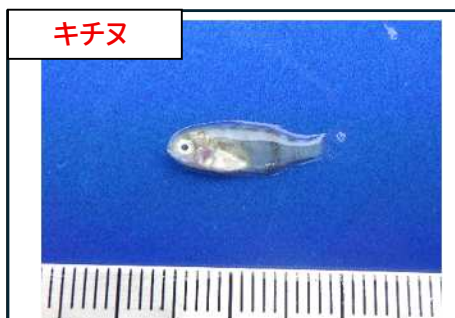


水際から数mで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



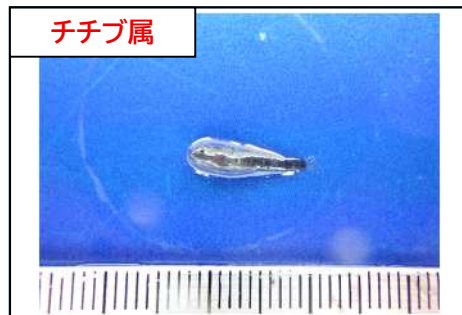
マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。



沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底等に生息する。成魚はクロダイに似るが、産卵期はキチヌが 10 月から 1 月、クロダイが 3 月から 6 月であり、干潟域での出現時期が異なる。



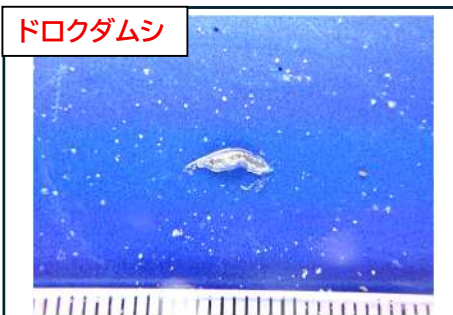
夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10 日から 2 週間後にふ化する。仔魚は干潟周辺で 3、4cm になるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。



ずんぐりとしたハゼ科の仲間。雑食性で、転石やカキ殻の間等に多く見られる。東京湾では 6 月から 9 月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等でふ化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。



青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。



体長 7mm ほどになるヨコエビの仲間。腕のように見える大きな第二触覚が特徴。泥等で管を作り、そこに棲む。内湾等に多く出現する。



# 森ヶ崎の鼻 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm

**シラウオ**

汽水湖や河口域に生息し、春に砂底で産卵する。近縁のイシカワシラウオとは尾の付け根の黒色斑などで見分ける。  
「本種は、水環境悪化が急速に進む中、1960 年代には絶滅した経緯がある。2021 年 2 月および 2022 年 2 月と 3 月に、東京湾内陸の多摩川河口で合計 8 頭が採取された。」引用先:指田、「東京湾で約 60 年ぶりに確認されたシラウオ」魚類学雑誌, 2024  
(本調査では R6 年5月、6月に葛西人工渚で確認されている。)

シラウオ

イシカワシラウオ\*1

**キチヌ**

沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底等に生息する。成魚はクロダイに似るが、産卵期はキチヌが 10 月から 1 月、クロダイが 3 月から 6 月であり、干潟域での出現時期が異なる。

**エビジャコ属**

稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は 砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

**イサザアミ属**

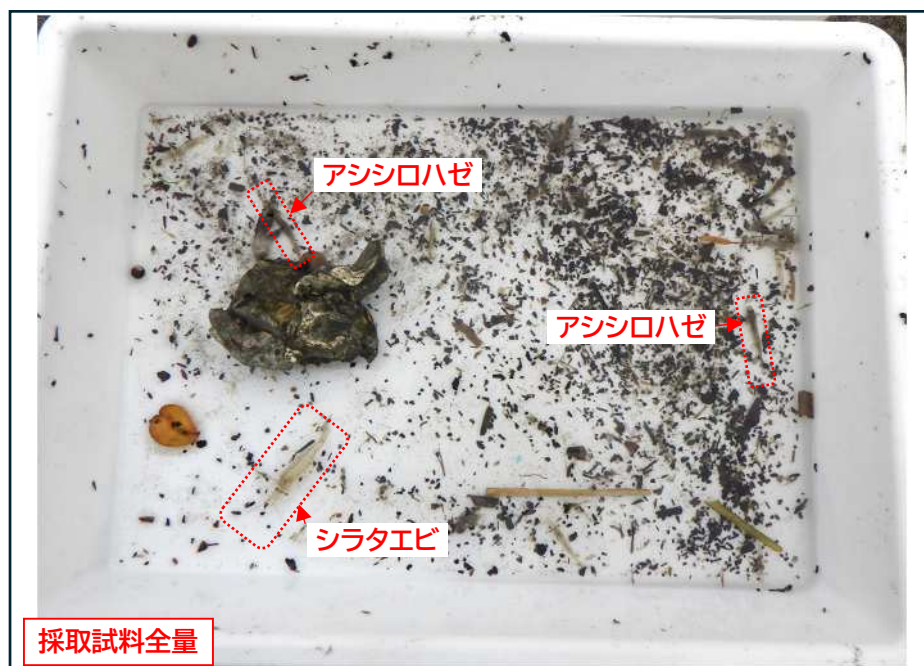
汽水域に生息するアミの仲間。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

**カイアシ類**

ウオジラミと呼ばれる魚類に寄生するカイアシ類。5mm 程度の甲殻類です。頭胸部全体が吸盤のような仕組みで魚の体表などに吸着して寄生する。魚から脱離して水中を浮遊する個体もいる。

\*1 出典: <https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/suishi/teichaku/documents/r6isikawasirauo.pdf>

# 葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm

**エドハゼ**

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地引網で採集されにくい。

**アシシロハゼ**

鱗が粗く体側にゴマ模様がある。成熟個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

**ヒモハゼ**

体はミミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長 4cm ほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。

**シラタエビ**

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

**イサザアミ属**

汽水域に生息するアミの仲間。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

**マガキ**

淡水の影響を多少受ける河口部等の潮間帯から潮下帯に生息する。東京湾では普通にみられる。護岸付近の浅場では殻長 5 cm 程度の小型の個体が多い。